

鰻資源の持続可能な管理・保全の動向①

ニホンウナギが昨年 2 月に環境省からレッドリストに掲載されたことを契機に、鰻資源の保全や持続可能な管理について、国の内外において慌ただしい動きが続いています。

9 月 2 日の組合情報交換会においても説明しましたが、日本政府（水産庁）が中心になって中国・韓国・台湾との国際的協調が進められており、「基本的には鰻の生産量を 20%とか 30%削減を決め、それに必要なシラスしか池入れしない」という生産調整が行われることが予想されます。9 月 16 日には、国際的な最終合意の為の会合がある予定です。

一方、日本国内においては、養鰻事業に関係のある県ごとに養鰻協議会が組織され、そこで生産調整の為の具体的な検討がなされる模様です。また、養鰻組合の連合体である日鰻連と全鰻連は、すでに「組織統合」を決定していましたが、10 月から新組織になり企業養鰻など未加盟の企業体もそれに加盟することで、全国単一の社団法人として出発するようです。

我々輸入者にとって、最も関心のある台湾や中国の生産調整の方向や貿易の規制については、日本政府と事前協議が進められているようですが、今のところ詳細の情報は入っていません。わかり次第、逐次ご報告いたします。

敬具

2014 年 9 月 2 日

日本鰻輸入組合

理事長 森山喬司